法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-01-15

田中利幸先生退職記念号に寄せて

中野, 勝郎 / NAKANO, Katsuro

(出版者 / Publisher)
法学志林協会
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
法学志林 / Review of law and political sciences
(巻 / Volume)
118
(号 / Number)
4
(開始ページ / Start Page)
1
(終了ページ / End Page)
2
(発行年 / Year)
2021-03-20

田中利幸先生退職記念号に寄せて

法学部長　中野勝郎

田中利幸先生は、二〇一〇年に法学部教授に着任され、学部および大学院で、刑法・演習などを担当してこられました。また、法律学科主任・法学研究科長も務められ、学部・大学院の教育・研究・行政において多大の貢献をなさいました。本年三月定年退職されるにあたり、学部を代表して、感謝の意をお伝えいたしたく思います。

先生のご業績を拝見すると、刑法の射程を広げて、海洋法・海事法、経済刑法や環境刑法にまで及んでいることがわかり、また、国際規範が国内法にどのような反映されているのかが考察の視点になっていることも読みとれます。法律学は、それぞれの専門分野の体系性、および、他領域からの自律性が高いですが、先生の研究の足跡は、「学際的」と呼ぶに相応しいといえましょう。

その学際性ゆえでしょうか、あるいは、そのお人柄ゆえでしょうか、先生が、法学部教員の懇親会等で、所属学科の隔てなく、ＩＬＡＣ担当教員も含めて、多くの方々と歓談なさっている様子をいつも拝見することができました。先生は、法学部という学部の一体性を重視なさりながらも、そこを閉鎖的な空間とすることはなく、むしろ、身をもって、専門知が他者へ開かれる空間として法学部を生きていらしたのだと思います。

知の発展がみずからの専門領域と異なる分野の研究者と交わりをもつことを必須の条件としていることを考えるな

らば、そのような振る舞い方は、法学部に残るわたくしたちにとって良き指針として捉えるべきです。

法律学科主任を一期務めていただいたとはいえ、前任校において法科大学院長、学長補佐を務めてこられた先生にたいしてそのような役職は、言葉の正しい意味で「役不足」であったと思います。しかし、教授会の席でのご発言には耳を傾けることが多々あったことは記しておかなければなりません。

個人的な思い出でこの挨拶を閉じるのは、不適切かもしれませんが、お許しください。一九七七年、わたくしがある大学の法学部に入学したとき、当時、法学部助手に赴任され、一年生向けの演習を担当なさったのが若き日の田中先生でした。わたくしは、やはり助手として赴任されていた下斗米先生の演習を履修しましたが、一年生ガイダンスの会場で、演壇から演習について説明なさっていた先生を記憶しております。その時の演壇の助手の先生方の言葉は、知とは無関係であった少年には「蒙」が啓かれる思いがした瞬間でもありました。四三年前に、新入生を迎えてくださって先生を、今日、その時の新入生がお送りすることになりました。年を経ることの感慨を語っているのではありません。法学部学生としての心構えのみならず、法学部教員としての作法までも、お示しくださった先生に、感謝申し上げたく、先生との出会いを認めたしだいです。

本学部にたいする先生のご貢献に、あらためて御礼を申し上げるとともに、先生のこれからの日々の平穏とご活躍を祈念しております。ありがとうございました。どうぞお元気でお過ごしください。